資料１

瑞穂町産業振興ビジョン・工業振興計画　推進状況

平成 25 年に策定した瑞穂町産業振興ビジョン・工業振興計画において主に取組に結びついている施策、および総合計画における関連のある施策等の実施状況をまとめました。

（1）産業振興ビジョン

①産業振興ビジョンの取組

No.	施策	取組の概要	実施状況や現状・課題
1	人材の発掘・育成	◆後継者の育成・誘致 ◆創業者支援 ◆コーディネーターの発掘・育成	人材の発掘・育成に関して、事業承継セミナーや創業者向けセミナーを実施した。事業承継に関しては、セミナーの開催だけでなく、商工会で会員向けに定期的に相談支援を実施している。創業セミナーは近年西多摩地域で開催されており、今後は町単独での実施も検討する。 また、コーディネーターについては、農業、商業、工業、観光に関わる事業者が集まりワークショップを開催したが、発掘・育成には至らなかった。
2	内外に対する PR・ブランド戦略	◆「みずほブランド」の認定・PR ◆プロセスの魅力の発信	平成 24 年度からみずほブランドの認定制度を開始し、令和 3 年度までに推計 24 品目が認定された。PR のためにパンフレットを作成した。イベントにも積極的に参加した。 また、イベントにおけるブランドの販売については、商品や作成プロセスの魅力発信のために事業者自らが販売している。
3	産業振興ビジョン策定ワークショップの拡充	◆産業振興ビジョン策定以後もワークショップを定期的に実施 ◆アクションプランの検討と実践、評価を行う。	農業、商業、工業、観光に関わる事業者が集まりワークショップを開催し、アクションプランを検討し実施に向け協議を行った。
4	（仮称）東京みずほ学校の創設	◆ワークショップを組織化し、産官民で組織する「（仮称）東京みずほ学校」を創設し、産業振興推進の事務局として実践の企画や議論の場として、さまざまな学びの場として運営していく	上記の活動は実施したが、（仮称）東京みずほ学校の創設には至っていない。

産業振興ビジョンの総括

現行の産業振興ビジョン策定を機に、農業・商業・工業・観光や金融機関などの関係者参画によるワークショップを継続実施できたことは成果であった。一方で、ワークショップ開催によるその先の展開までは見通せず、産業振興の中心となる組織体（（仮称）東京みずほ学校）について、主体性や実行性を備えることが大きな課題と感じている。

みずほブランドについては着々と認定品目が増えてきており、一定の成果がみられた。ブランドのＰＲについては、ＰＲ物品は町が作成するが、参加した町内外のイベントでは、商品の想いを作った本人が直接お客様に伝えている。「みずほブランド」の周知については、引き続き町としてもバックアップし、ブランド認定を受けるメリットを強化する必要がある。

人材の育成に関しては、町単独でのセミナーや相談会を実施してきた。創業セミナーに関しては、金融機関や西多摩地域の広域により実施したが、セミナー開催だけでなく広く産業振興に向けた連携の方策を探ることが課題となる。

人材育成やブランド戦略などの事業は以上のように実施してきたが、コーディネーターの発掘や組織体の形成についてなど実施に至らなかった事業の共通の課題として担い手の発掘ができなかった点が挙げられる。産業振興に積極的な人材の発掘、育成が必要である。

（２）工業振興計画

①受発注の機会拡大

No.	施策	取組の概要	実施状況や現状・課題
1	「瑞穂ファントム工場」のメンバー拡充とブランド構築	◆同業種交流会の開催 ◆共同受注システムの可否の検証 ◆ブランドづくりと PR	同業種交流会として、商工会と連携した製造業の事業者交流会を平成２７年度から年１回実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で、近年 2 年ほどは開催できていないが、今後も実施していく。 「瑞穂ファントム工場」は、現在共同受注システム機能ではなく、企業の技術 PR やマッチング機能になっているのが現状である。今後については、今までの活動を検証し、協議していく必要がある。
2	マイスター制度の創設	◆マイスター称号の付与 ◆マイスター認証制度の構築 ◆マイスター中心の勉強会開催	マイスター制度は実施していない。今後も実施の予定はない。 事業所の持つ技術の見える化のため、動画を作成した。作成した動画は、各企業や商工会ＨＰでＰＲに活用した。 また、交流と学びの場としてファントム工場や工業部会を中心に、展示会での効果的な展示方法や、動画の活用方法等の勉強会を実施した。
3	瑞穂町を象徴する製品や作品の製作	◆瑞穂町を象徴する製品の作成･周知	町は製造業が盛んであり、技術力の高い企業が多いが、町を象徴する製品はない。ＪＲ箱根ケ崎の駅名看板の製作を、ファントム工場が受注した。

②事業承継支援

No.	施策	取組の概要	実施状況や現状・課題
4	廃業予定事業所へのヒアリング・相談会の開催	◆廃業予定事業者へのヒアリング、 ◆事業承継相談会の開催	企業訪問でのヒアリングの中で廃業を考えているという話を聞いた。廃業予定事業者の把握が難しいため、金融機関など関係団体と連携し情報収集を行うなど検討する必要がある。 平３０年度より事業承継セミナーを開催し、親族や従業員への承継やＭ＆Ａなど、さまざまな事業承継のパターンの説明をした。セミナー開催後、講師と直接相談するケースもあった。町内の企業の多くが、事業承継が課題となっているため、事業承継支援を今後も実施する。
5	後継者塾の開催	◆後継者･候補者セミナーの開催	事業承継セミナーにおいて、後継者の参加や後継者の心構えを学ぶ後継者向け編も開催した。今後も、事業承継支援の一環として、実施を検討していく。
6	開業・廃業マッチング支援	◆事業承継のマッチング支援	事業承継のマッチング支援としては、企業訪問の際に、廃業を予定しているという企業に、事業の継続について確認した。関連会社や取引のあった会社に事業を譲るという話が多い状況。開業、廃業を把握することは難しく、町がどのように関われるかが課題。

No.	施策	取組の概要	実施状況や現状・課題
7	施設・設備老朽化への対応	◆設備更新の経済的支援	町の融資の設備資金にて、利子補給や保証料の補助を行った。新たな経済的支援については、必要に応じて検討していく。

③創業支援

No.	施策	取組の概要	実施状況や現状・課題
8	創業塾の開催	◆創業塾の開催	平成 26 年まで町と金融機関と連携し、創業者向けセミナーを開催した。平成 25 年度～28 年度には西多摩地域で連携した創業セミナーを開催した。 また、資金融資の紹介や、商工会と連携し支援を実施した。 今後も支援内容を検討し実施していく。
9	ビジネスプランコンテスト	◆ビジネスプランコンテストの開催	商工会では平成 25 年度と 26 年度にアイデアコンテストを実施した。今後については実施していく予定はない。
10	創業者向け施設整備や斡旋	◆創業希望者向けセミナーの開催 ◆創業希望者向け用地等取得の斡旋	平成 26 年まで町と金融機関と連携し、創業者向けセミナーを開催した。平成 25 年度～28 年度には西多摩地域で連携した創業セミナーを開催した。今後も支援内容を検討し実施していく。 不動産事業者と連携し企業立地マッチング促進事業を実施したが、実績は 0 件だった。

④他産業との連携

No.	施策	取組の概要	実施状況や現状・課題
11	農業、商業、観光との連携	◆農業との連携 ◆商業との連携、観光との連携	産業振興ビジョン、工業振興計画策定後、農業、商業、工業、観光に関わる事業者が集まりワークショップを開催した。グループごとに観光ＰＲや商品開発について検討した。このワークショップは平成 29 年度までは町主導で開催し、それ以降は自主的に集まり商品化に向け話し合いを続けた。 現在、進めていたプロジェクトの終了により実施されていない。

⑤ＰＲとブランド戦略

No.	施策	取組の概要	実施状況や現状・課題
12	ホームページやソーシャルメディアでの発信	◆産業振興の取り組みのリアルタイム発信	セミナーの開催や各種施策の紹介を町ホームページに掲載した。また、商工会の協力をいただいて、情報提供を実施している。
13	展示会や外部でのＰＲ機会の創出	◆町外イベント･セミナーでのＰＲ活動	展示会に出展する企業への支援として、産業見本市等出展支援事業補助金を創設した。今後も継続していく。

⑥総合計画における関連する取組

No.	施策	取組の概要	実施状況や現状・課題
14	立地希望事業者に対する情報提供	—	企業誘致促進事業や、土地情報を所有している不動産事業者と連携し、情報提供を受ける企業立地マッチング促進事業を実施。また、東京都企業立地相談センターなどと連携し情報提供を行った。今後も、関係機関と連携し実施していく。
15	イノベーションの創出に向けたまちづくりの研究・検討	—	長期総合計画や都市計画マスタープランにおいて、東京都が進める多摩イノベーションパーク(仮称)について言及している。どのような形でイノベーションを創出できるか研究･検討していく。

⑦その他

No.	施策	取組の概要	実施状況や現状・課題
16	企業立地支援	◆企業誘致活動、用地整備・供給、優遇措置等支援制度	企業誘致促進事業を実施しており、新たに町内に進出する企業に対し奨励金を交付した。また、企業立地マッチング促進事業を実施した。今後も、同事業を実施していく。
17	経営力向上支援	◆販路開拓支援、新製品･新技術開発支援、様々な経営相談支援	販路開拓のため展示会に出展する企業への支援として、産業見本市等出展支援事業補助金を創設した。また、商工会と連携し様々な経営相談に対応した。今後も同事業を継続するとともに、新たな支援策を検討していく。

工業振興計画の総括

事業者交流会の実施や創業支援、多くの企業の課題である事業承継、ＰＲ機会の創出のための補助金の創設などを実施したが、マイスター制度創設やビジネスプランコンテスト、瑞穂町を象徴する製品作成といった、“瑞穂町らしさ”を見つけ、育てるような取組については実施が今一歩となった。また、「瑞穂ファントム工場」による共同受注システムの検証についてもあまり着手できていないのが現状である。本町の特徴として、大手企業を囲む形で多種多様な中小零細企業があることがあげられるため、多様な企業や技術の情報を集約したＰＲや、この強みを活かした付加価値の向上策を検討することが課題となる。

また、多種多様な中小零細企業があることは強みであると同時に、事業の承継問題が起こりやすいといった弱みも抱えている。円滑な事業承継を行うためには引き続き支援が必要である。

マイスター制度の創設など実施できなかった事業は、関係機関との連携、共通認識が足らなかったことである。さらに、関係機関の実施計画、意向も調査する必要がある。また、事業承継や創業については、さらに支援策を充実させる必要があるのではないか。